

北海道開発局における ワンデーレスポンスの実施について

北海道開発局事業振興部技術管理課
技術管理企画官 坂場 武彦

1. はじめに

北海道開発局では、平成17年4月に監督業務の向上を図るためにアンケート等による実態調査結果をまとめました。その結果から、職場での日常の意思疎通・情報共有の不足とともに、現場で発生する問題に対する発注者の意思決定に時間を要しているという問題が浮かび上がり、それらの改善が必要と認識しました。特に、工事の中断や遅延が発生すると、工期にも影響を与えかねないことから、工事の品質確保やコストの縮減のうえからも、工期内に発生する無駄を省くことによって工期を短縮することが重要であり、問題解決の迅速化を図ることが重要と考えました。

そこで、北海道開発局では現場の問題発生に対する迅速な対応を図るため、「ワンデーレスポンス」の取組を全国に先駆けて実施してきたところです。

2. 「ワンデーレスポンス」とは

「ワンデーレスポンス」とは、従来から上司や先輩職員が「現場を待たせるな」「何かあったら早く相談しろ」と監督員に指導し、監督職員個々において実施していた、「現場を待たせない」「速やかに回答する」という対応を今一度組織的、システム的に実施するものです。工事現場において、発注段階では予見不可能であった諸問題が

発生し、その対処に必要な発注者の意思決定に時間を費やすと、実働工期が短くなり工事等の品質が確保されないことにも繋がりがねません。そのため、発注者は、受注者から質問・指示依頼があった場合、原則として「その日のうち（1日で対応＝ワンデーレスポンス）」に解決し、回答するというものですが、その日のうちに解決できない場合でも、回答日を予告するなど、次の段取りができるような何らかの回答を「その日のうち」にするというものです。

ワンデーレスポンスの取組は、受注者の協力が無くては成り立ちません。受注者は発注者が速やかに判断することができるように、できるだけ材料をそろえていただく必要があります。また、現場での工程管理が十分でなければ、せっかく回答が早く返ってきててもその効果が吸収されてしまって、全体工程には効果として現れないことにもなりかねません。ワンデーレスポンスの効果をより高めるには、受注者の適正な工程管理が必要であり、そういう意味からも、ワンデーレスポンスは受発注者の協働による取組といえます。

3. ワンデーレスポンスの効果

ワンデーレスポンスを実施することによって以下のような効果が期待されます。

まず、受注者にとっては、現場での手待ちが減少するほか、回答日が予告されるこ

とによって次の段取りができるなど、効率的な現場施工が可能となることが最大のメリットです。また、発注者にも共通することですが、受発注者間で現場の問題点や進捗状況などの情報共有が進み、様々な視点からの現場の把握が可能となるほか、トラブル発生に対するレスポンスタイムの短縮のみならず、トラブルの拡大そのものの防止にも繋がります。一方、発注者にとっては、現場を待たせないために担当者には素早い「報告・連絡・相談」が要求されるとともに、相談される上司にも素早いレスポンスが求められることから、職場内のコミュニケーションの向上や技術の伝承にも繋がります。また、スピード感を要求されることにより緊張感や学習意欲の向上など意識改革が促されます。さらにその効果は、受注者・発注者にとっての効果にとどまらないと考えています。すなわち、工事が円滑に行われ目的物が早期に完成することは、その効果を早期に国民へ提供できるとともに、工事現場周辺の住民等への影響を少なくできるなど、公共工事の目的である行政サービスの向上にも繋がるものと考えています。

4. おわりに

北海道開発局では、ワンデーレスポンスの取組により大きな効果が期待されることから、平成19年度においては、全ての土木工事を対象とするほか、さらなる効率化・高度化を図るために500件程度の工事を対象としてフォローアップ調査を実施するなど、その取組を強化していくこととしています。

ワンデーレスポンスの効果を高めるためには、発注者、受注者の意識改革が必要です。

発注者においては、工程管理に真剣に取り組んでいる業者に対して発注者が原因で工程に遅れを生じさせない。受注者においては今回の取り組みをひとつの契機として工程管理を今一度見直し、また監督員が的確に判断できるように相談をするということです。

公共事業を取り巻く環境は大変厳しく、公共工事の現場も沈滞ムードが漂うような状況にあります。ワンデーレスポンスの取り組みを通じて元気な現場を取り戻していくことができればと切に願っているところです。

